



第32回日本外来小児科学会報告



2023.9月 横浜（※は平井のコメントです）

偏食外来：食事の強制はしない。TVを見ながら食べない。姿勢の安定が大切。足台などで工夫して足をつけて食べる。舌挺出反射は9-11カ月で見られなくなってくる。「体重減らしてはダメだよ」は禁句。便秘による偏食はあるので、確認する。鉄不足は乳幼児でよくある。眼瞼結膜貧血は有名だが必ずしも当てはまらないことがある。（※ひどい貧血では眼瞼が真っ白になります）鉄不足は食品で補うのは難しく、鉄剤投与になる。偏食にはこれら以外にも睡眠障害、血中亜鉛・フェリチン（貯蔵鉄）の低下を引き起こすことがある。可能ならば、測定が望ましい。（※乳児の採血は大変です。当院かかりつけの方で血管が見えている方には採血しています。）

子どもの痛み：新生児も痛みを感じる。しかも同じ刺激の場合、成人より強く感じる。しかも痛みは記憶に残る。Distraction（興味を他にそらすこと）がいい。音の出るドキンちゃんをもって、横の方から鳴らすなど。

位置的頭蓋変形：最近のトピックです。矯正のヘルメットを1日23時間つけます。まん丸の頭になります。開始は早ければ早いほど良いと言われています。その中でも稀に頭蓋骨早期癒合症などの事があるので小児科受診をお願いします。（※平井は病的かどうかは見ればわかります。ヘルメット療法は全額自費で50万円位かかります。近隣の病院は混みあって予約がすぐには取れないのがネックです。）

Tummy time（お腹の時間）：首がある程度座っている赤ちゃんは、うつ伏せ姿勢をとると頭を持ち上げるので矯正になります。突然死のリスクがあるので目を離せません。

喘息治療の変遷：30-40年前は水飲み・痰だし・腹式呼吸・鍛錬療法と称して乾布摩擦や激しい運動をさせていました。治療薬はネオフィリンとボスミン。今、これらは全く意味がない（腹式呼吸を除く）どころかひどい害だとわかってきました。喘息の原因は気道過敏性とリモデリング（気管支の壁が繊維性変化などを伴った分厚い層になること）です。治療は吸入ステロイドとロイコトリエン受容体拮抗薬（キプレスなど）が主体です。（※喘息の治療も得意です。ご相談ください。30年前は私も指導医に教わって上記の治療をしていました。その頃の子ども達に申し訳ないです）

毎年数十人いた子どもの喘息死は今ではゼロになりました。（※37年前、S病院で喘息の子どもが朝、病棟に行ったら亡くなっていました。悲しい思い出です。）

★さだまささんのトークと歌がありました。（※歌、素晴しかったです。）



平井こどもクリニック 院長